

2023年10月23日

各 位

会社名 株式会社 キャンバス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号：4575 東証グロース)
問合せ先 取締役最高財務責任者 加登住 眞
IR@canbas.co.jp

ESMO年次総会におけるCBP501臨床第2相試験結果のポスター発表について

当社の抗がん剤候補化合物CBP501の臨床第2相試験データについて、2023年10月20日から24日までスペイン・マドリードで開催されている欧州臨床腫瘍学会（ESMO）年次総会でポスター発表が行われましたので、お知らせします。

表題： “Multicenter, randomized, parallel group, phase 2 study to establish the efficacy and safety of CBP501, cisplatin, and nivolumab for ≥ 3 rd line treatment of patients with exocrine pancreatic cancer and WBC $< 10,000/\text{mm}^3$ at screening”
(参考訳) 「白血球数 $10,000/\text{mm}^3$ 未満でスクリーニングした3次治療以降の外分泌膵臓がん治療における CBP501・シスプラチン・ニボルマブ3剤併用の有効性安全性を確立するための多施設無作為化並行群臨床第2相試験」

プレゼンテーション番号：1625P

発表者： Thomas Enzler M.D., Ph.D. (ミシガン大学アナーバー校)

このポスター発表において、臨床試験統括責任医師（PI）Thomas Enzler医師は、CBP501・シスプラチン・ニボルマブ3剤併用投与について

「転移性膵臓がんに対する3次治療として、忍容性のある安全性で、3ヶ月無増悪生存率、無増悪生存期間および全生存期間において、持続的な奏効と臨床的に意義のある改善をもたらした。この化学免疫併用療法は、さらなる検討を進めるべきである」

と結論づけています。

一般の方にポスターをご覧いただく方法は現時点で公式に発表されていません。詳細がわかり次第、改めてお知らせします。

また、このポスター発表に先立ち開催された膵臓がんに関する注目アブストラクトを紹介するセッションにおいて、膵臓がん治療の改善に向けた革新的戦略を探求している臨床試験のひとつとして、このCBP501臨床第2相試験がとりあげられました。

セッション登壇者Benedikt Westphalen医師（ミュンヘン大学病院）から、「この3剤併用のような化学免疫併用療法は進行膵臓がん治療の新たな地平を開く可能性がある」とコメントされています。

この詳細はESMO公式メディア[Daily Reporterの記事](#)をご参照ください。

なお、本件による当期業績への影響はありません。

以上